



埼玉県校外教育協会
シンボルマーク

校外教育

～「郷土愛を育む」 埼玉県校外教育協会～

NO. 152

令和2年2月発行

一般
社団法人 埼玉県校外教育協会

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課内
TEL : 048-830-6748

ホームページ [埼玉県 校外教育](#)

特集 第54回 「郷土を描く児童生徒美術展」



「でんしゃ」

戸田市立新曽北小学校

1年

田村 晃太郎さん

《作品のみどころ》

1年生の見方・感じ方で色を工夫しながら表したすばらしい作品です。電車の中の青いシートもイメージをもち、表して、すてきです。

【作者から】

たまにしかあえない、おじいちゃんとおばあちゃんに、あいにいくときに、のったでん車をかきました。また早くいきたいな、とおもいながらかきました。ちじしょうをもらって、とてもうれしかったです。また、ちじしょうをもらいたいです。

【保護者から】

普段あまり絵を描く子ではないので、知事賞を受賞したと聞いた時は驚きました。遠方に住む祖父母に会いに行く時のワクワクした気持ちが、画用紙いっぱいの電車なのかな、と思いました。今回の絵のように、自分の考えや思いを自由に表現してほしいです。

第54回「郷土を描く児童生徒美術展」中央展覧会を終えて

児玉地区代表
本庄市立北泉小学校長

岡村 和美

令和元年11月30日（土）、12月1日（日）の2日間、第54回「郷土を描く児童生徒美術展」中央展覧会が、本庄市立本庄東小学校体育館において開催されました。会場では、県内の小・中学校児童生徒の「知事賞」120点を含む「特選」作品1,007点が展示され、子どもたちのすばらしい作品から溢れ出るパワーで独特の緊張感に包まれていました。

展覧会当日は、知事賞並びに特選に選ばれた県内の各所から来られた児童生徒、保護者や家族、祖父母等の方々をはじめ指導された先生、また、地元の児玉地区の小中学校の児童生徒や先生、保護者や地域の方々で大変な賑わいとなりました。お陰様で、2日間の来場者は3,023名でした。

本美術展は、埼玉県校外教育協会及び埼玉県美術教育連盟が共催する今年で54年目となる大変歴史ある美術展です。中央審査会に先立ち、県内10地区で行われた地区審査会では、約10,000点の入選作品が選出されました。10月11日の中央展覧会作品審査会を経て、知事賞及び特選1,007点の作品は会場地である児玉地区小中学校の教員が一枚一枚台紙に貼り、県内10地区に分けて梱包し大切に保管しました。

中央展を開催するに当たっては、児玉地区の小・中学校図工・美術担当教員の総力を結集して準備作業を行いました。児玉地区は県内10地区の中でも学校数が少ないため各校から1～2名が集結し、大里地区や秩父地区からも応援をしていただくこともありました。展覧会の2日前にはパネルの運搬を行い、前日にはパネルの組み立てと会場設営、梱包した作品を各地区別に展示し、駐車場や受付、立て看板等の準備を整えました。

展覧会当日は、好天に恵まれ、受付・案内係・駐車場係等の運営も順調でした。展覧会終了後は会場片付けと県内10地区への作品送付作業も滞りなく行いました。児玉地区の運営委員は「チーム児玉」として全員が共通の意識をもってすべてのプロセスを慎重に進めました。それは、「作品は子ども自身」という強い思いです。1,007点の作品を1,007人の子ども自身と思い、一作品一作品を丁寧に扱いました。作業中は声を掛け合いながら、迅速かつ効率よく進め、予定していた時間内にすべての作業を終了することができました。

展示された作品はどれも力作揃いで、さすがは知事賞・特選作品。何が描きたかったのかという、主題が明確であり、題名も言語活動の充実が図られており、さらに描画材も工夫されており、図工における「形・色・イメージ」の三要素が見事に融合されています。来場者の方々からのアンケートにもそれがよく表れており、レベルの高さに驚く声がほとんどでした。このことは、県内の図工・美術科の授業で、技能的なものだけでなく、作者の思いを大切にそれぞれのよさや個性を十分引き出して表現することの喜びを実感させている先生たちの指導の成果であると言えます。中央展のよさは、県内のすべての小・中学校の児童生徒の表現の「今」を掴めることができることです。

結びに、本展覧会を開催するに当たりましては、埼玉県教育委員会、埼玉県校外教育協会並びに会場の準備、運営、片付けに御協力いただきました児玉地区・大里地区・秩父地区の美術教育連盟の先生方に心より感謝申し上げます。



【 本庄市立本庄東小学校での展示作業 】



【 展覧会当日の様子 】

知事賞作品の紹介（小学校低学年）

小学校低学年の審査に携わって

坂戸市立大家小学校長 武藤 篤美

毎年、小学校低学年の作品は、子供達の元気なエネルギーに圧倒されながら楽しんで審査をすすめています。今年も様々な題材に挑戦し、自分なりの発想を大切に作品を多く見ることができました。学校でのプールの授業風景や遠足、身近な昆虫などをテーマにして、クレヨンや水彩絵の具を使って描いた作品は子供達一人一人の「つぶやき」をたくさん聞くことができました。

低学年では、材料の技法など先生の指導が大切になります。先生の指導と子供の心が一体となったものが良い作品となっています。子供達が感じたイメージを後ろからそっと支えてやりながら、一緒につくっていく姿を絵から感じ取ることができます。子供達の活動をあたたかく見守り、表現の支援をしてくださった先生方に深く感謝いたします。これからも作品から聞こえる「子供達の声」をしっかり受け止め、審査に生かしていきたいと思ひます。



「上ばきロケットでふしぎなうちゅうへごー」
鴻巣市立広田小学校 3年 湯本 大智さん

《作品のみどころ》

身近なものを見つめていたら広田小のみんなはいている上ばきがロケットになりました。色も形も「楽しそう」が伝わる表現です。

【作者から】

最初は何を描こうか迷っていたけれど、うわばきを見て、うわばきが乗り物だったらすごいなと思いました。うわばきを描くのはすごく難しかったけれど、がんばって描こうと思いました。知事賞と聞いた時はよく意味が分からなかったけれど、説明されたらすごい事だと知り、うれしくなりました。

【保護者から】

知事賞受賞の知らせを頂いた時は、こんなに素晴らしい賞だという実感がありませんでした。でも授賞式に参加し、実際に絵を見て実感が湧いてきました。絵を描いたり、工作をしたりするのが好きなので、これからも自分が見たり感じたりしたものを自由に伸び伸び表現して欲しいと思ひます。



「ちちしほりをたいけん」
坂戸市立大家小学校 1年 角館 恵瑞さん

【作者から】

わたしは、うしのちちしほりがとてもたのしかったので、たのしくちちしほりをしているようすを、がようしいっぱいに大きくかきました。

ちじょうになったときいて、はじめはどんなしょうかわからなかったけれど、すごいことだといわれ、とてもうれしかったです。

【保護者から】

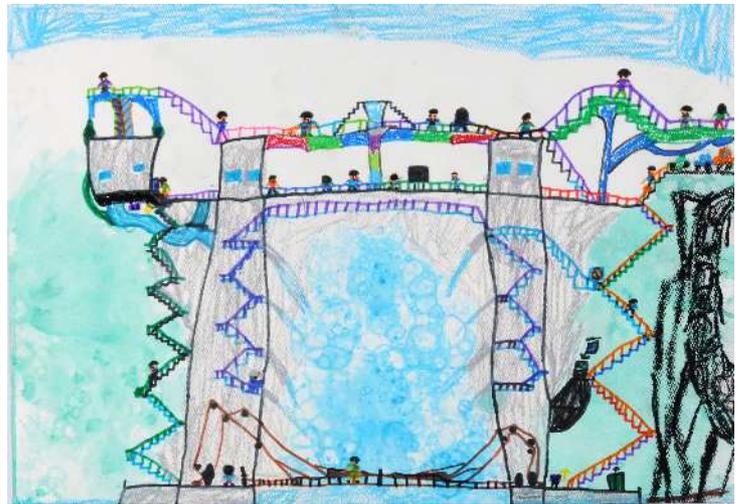
今回このような素晴らしい賞を頂き、驚きと喜びでいっぱいです。小さな頃から絵が大好きで、暇さえあれば絵を描いていました。大好きな事で評価されたことが、本人にとっても、大変自信になったと思います。これからも成長していく娘の姿を見守り続けていきたいと思っています。

【作者から】

ぼくは、知じ賞をもらえると思わなかったのでびっくりしました。さいしょは、滝にしようと思ったけれど、しゃぼん玉の形がダムの方流に見えたのでダムにしました。夏休みに家族でちちぶのダムを見に行った時を思い出してかきました。

【保護者から】

大変名誉な賞を頂き、親子共々驚きと共に大変嬉しく思っております。家でもよく絵を描いていて、表現力や観察力に驚く事があります。今回の絵はダムを初めて見た時の興奮や感動が生き生きと描かれているように感じました。次はどんな絵を描いてくれるか楽しみにしています。



「水しぶきがすごいこうざんダム」
川越市立大東東小学校 2年 渡邊 大雅さん

【作者から】

ぼくは、海が好きです。消しゴムを横にしたら船に見えたので消しゴム船をかきました。みんなを乗せて旅に行くところとちゅうで、にじのトンネルをくぐっているイメージでかきました。知事賞をもらえてとてもうれしかったです。

【保護者から】

知事賞を頂き、家族一同で驚き喜びました。小学校3年生がどのような絵を描いたのかと期待しながら展示された作品を見ました。消しゴムを船にするとという発想と想像で描いた虹色の配列順も良く、このような作品を描ける事にとても驚きました。

子供の成長をこれからも見守りたいです。



「消しゴムぶねでレッツGO」
さいたま市立城北小学校 3年 中村 光志さん

知事賞作品の紹介（小学校高学年）

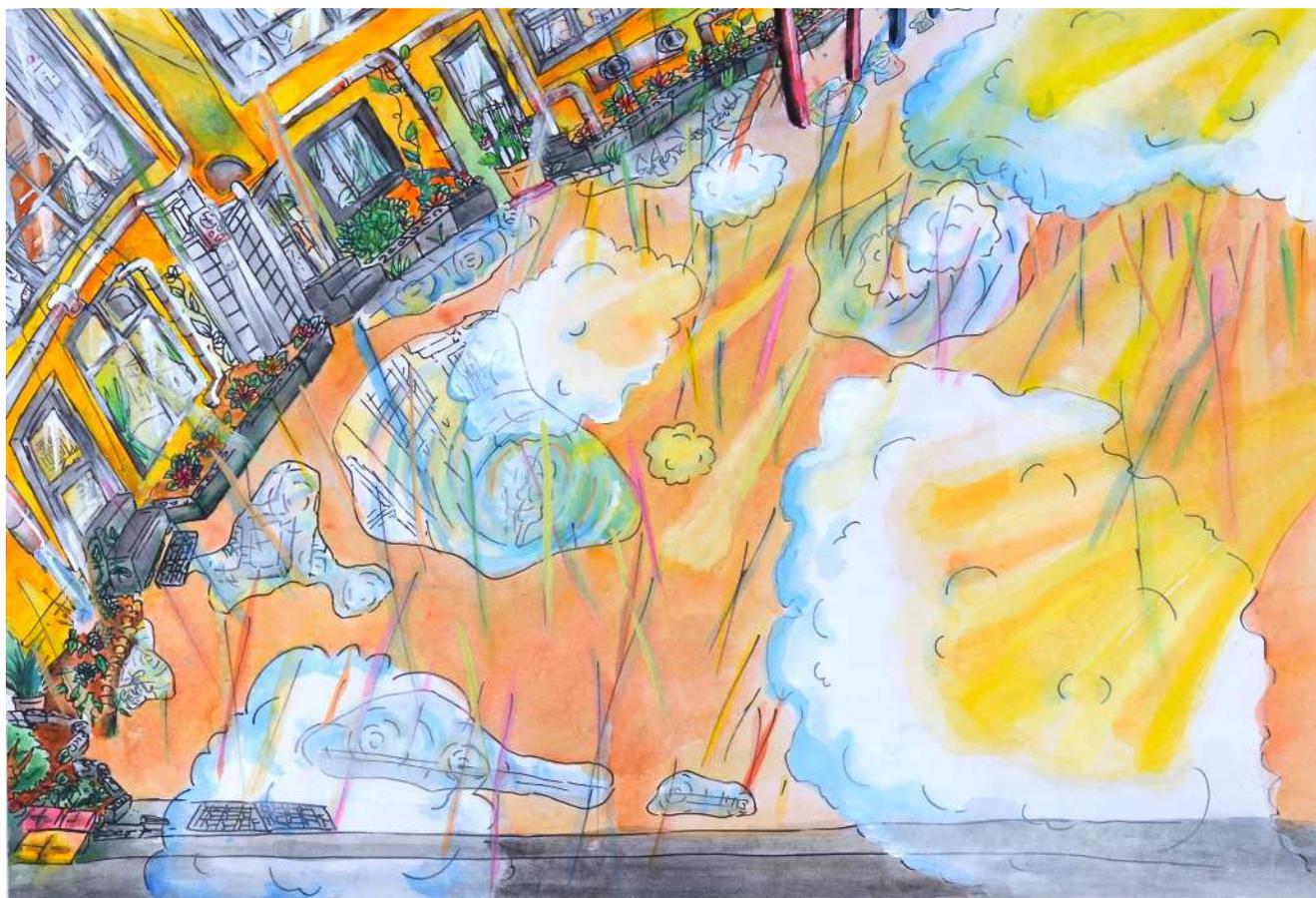
小学校高学年の審査に携わって

加須市立大越小学校長 中島 高広

今回の審査では、作品がもつ個性的な特徴を見る側に強く伝えてくる作品が印象的でした。郷土という共通のテーマでありながら、対象をじっくり見つめつつ写実への欲求を実現した重厚な作品や、身近な風景を独自の構図で切り取った軽快な作品、現実の色彩や空間、時間を越えて独自の魅力を放つ作品など、表現は多岐にわたっています。

作品をつぶさに見てみますと、低学年で重ねてきた技法体験を自身の蓄えとして、豊かな表現に生かしていることが分かります。こうした活動を支えているのは、学びの連続性や表現の多様性を意識した教師の指導であると思われます。先生方の熱心な研究への姿勢と努力に感謝いたします。

今後も、子どもたちの思いに満ち、鑑賞者に新鮮な感動を与えてくれる作品を期待しています。



「天気雨」

さいたま市立海老沼小学校 6年 阿部 真広さん

《作品のみどころ》

校舎をよく見て描いています。一方、光、雨、水たまりに映る風景…思いや想像の世界がすてきにとけあっています。

【作者から】

一回目に全体をぬった時は全て同じくらいの色の濃さでしたが、たくさんの思い出のある大好きな校舎を目立たせるため、黄色で濃く上塗りし、鮮やかな橙色をたしました。知事賞の受賞が学校への恩返しになるといいなと思います。

【保護者から】

今回の受賞を大変嬉しく思います。会場で初めて見た時は、暖かな空気感に包まれました。そして、構図と描き込みに関心しました。お天気雨とは、晴れなのに雨が降る珍しい気象現象で虹が出やすいそうです。娘にとり、学校が夢のある所である事に喜びを感じました。



「日本のでんとう
黒田ししまい」

深谷市立
花園小学校

4年
井口 蘭さん

【作者から】

力強く生き生きとした獅子舞を描きました。工夫は、羽をいろいろな茶色で描き、いろいろな向きに描いた所です。赤緑黒のくるくるした角や、するどい目、服の細かい波もようなど工夫しました。図工の先生にアドバイスをもらいながらがんばって描きました。これからも楽しく絵を描いていきたいです。

【保護者から】

この絵に取り組んでいた頃、家に帰ると「こんな獅子舞の絵を描いているんだよ。」と、とても嬉しそうに話してくれたことを思い出します。小さい頃から絵を描くことが好きな子でした。このまま、自由に楽しんでいろいろな絵を描いてもらえたらいいと思います。これからは、楽しみです。

【作者から】

私は、この絵を描きながら「とても楽しい」という思いでいっぱいでした。学校を描き始めると夜の場面が頭に浮かんで来て、今までの思い出にひたりながら、色を工夫して描きました。描いているうちにどんどんイメージが広がり、とてもすてきな作品になって嬉しい気持ちになりました。

【保護者から】

「夜の学校」という題名と、色とりどりの色彩からドキドキとワクワクを感じることができました。学校という場所で起きる楽しいことや、不安感、期待感などの感情があふれ出てきそうです。これからも、大好きな北泉小学校で学び、自由な感性を表現してほしいと思います。



「夜の学校」

本庄市立北泉小学校 5年 芦澤 菜々子さん

【作者から】

知事賞を受賞したと担任の先生に知らされた時は「こんなに自分の絵が上達したんだ」と思いました。私は父から教わった「立体感」を意識しました。例えば、濃くなる所は濃く、光が当たる所は白色をおいていきました。その結果、より一層、良い絵になったと思えました。将来のために絵を沢山かきたいです。

【保護者から】

筆で絵の具を置いたユニークな技法が実に趣深いコントラストを生み、神社の荘厳な感じがとても良く表現されていると思います。遠くから見ても娘の作品だとわかるこの一枚が知事賞に選ばれたこと、本人はもとより、家族一同、私事のように嬉しく、誇りに思います。この度はありがとうございました。



「高城神社」

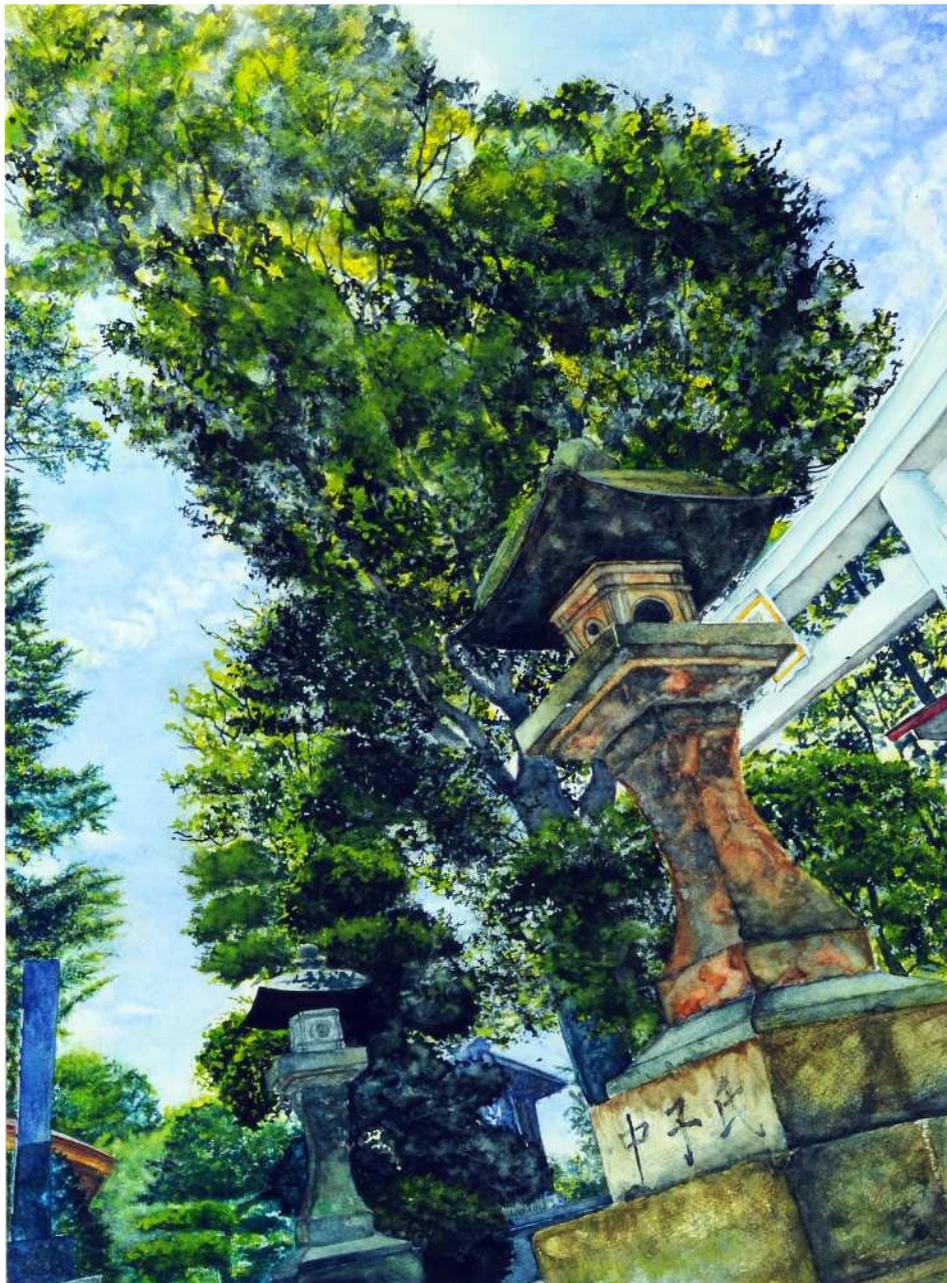
熊谷市立石原小学校 6年 桐原 希さん

知事賞作品の紹介（中学生）

中学生の審査に携わって

戸田市立美笹中学校長 山田 一文

今回の審査でも、これまで中学生の作品によく見られてきた、対象を丹念に観察し熱心に描きあげた写実的な表現や、自分の内面のイメージを豊かに膨らませ工夫が際立った表現は数多くありました。近頃はこのような表現に加えて、日常生活の心に残る劇的な瞬間を見事な構図で表現したり、映り込みやコントラストを巧みに使って光や輝きを扱ったりした表現が増えています。おそらくメディアの発展によって、日常に、優れた色彩・構図・演出の映像を見る機会が増えていることや、誰もがあたりまえのようにスマートフォンなどを使って見栄えする写真を撮り、それらを鑑賞し合う世の中になってきたことも無関係とは言えないでしょう。これから中学生による時代を先取りした作品が生まれるかも知れません。期待が膨らみます。



「かくれんぼ」
さいたま市立馬宮中学校
2年 本多 由夢さん

【作者から】

この絵の神社は家の近くにあって、見るたびに古いけれど清潔感があっていい神社だな、と思っていたので今回描くことにしました。描くにあたって、ただ描くのではなく小さい子どものような目線を意識して描きました。

私の絵が今回知事賞を受賞できて嬉しかったし、頑張って描いて良かったと思いました。

【保護者から】

描いている時は、絵が嫌いになってしまうのではないかと思うぐらい自分を追い込んでいました。納得出来ないまま絵を提出したら先生に、「本当にこれでいいんだな？」と言われ、「いえ、もう少し時間をもらえるなら描き込みたいです。」先生の一言で納得できる絵が描けたと思います。素晴らしい結果でしたから。

《作品のみどころ》

新鮮な視点で広がりのある世界を美しく、ダイナミックに表現しています。



「夏の思い出」
小川町立東中学校 1年 鷹野 凜さん

【作者から】

小川町で行われる七夕まつりでは毎年、多くの方が楽しんでいます。そんな七夕まつりがこの先もずっと続いてほしいという思いや私がみた景色や「夏の思い出」をいつまでも大切にしたいと思いこの絵を描きました。今回はこのような名誉ある賞を頂き、光栄に思います。

【保護者から】

大きな山車と笛太鼓、それを取り囲む人々を掻き分けながら町を練り歩く雰囲気伝わり、迫力あるアングルで表現出来ていました。中学生になり、祭りの景色や感じ方も変わってきたことでしょうか。何時までも感じたモノを素直に表現できる人であってほしいと願っています。

【作者から】

これは神保原駅の陸橋からの景色です。私はこの電灯に表しようのない迫力を感じたのでこの絵を描きました。私自身初めて三原色と白のみで描いた作品であったので、それがこのような形で認めてもらえるというのは、今後の製作の自信になりました。来年はもっと良い作品を描きたいと思います。

【保護者から】

夏休みが始まりこの駅を利用した時、描いてみたいと思った場所は、駅ではなく駅前の街並みだったようです。雲多めの朝焼けと街並みを丁寧に表現することができ、思った以上に素敵な作品になりました。今回このような素晴らしい賞をいただき、ありがとうございました。



「精一杯の光」

上里町立
上里北中学校

2年
高野 祥伍さん

【作者から】

大きな賞を頂けて、知らせを受けたときはとても嬉しかったです。

家族で公園にピクニックに行った際、その公園の池に映った空が幻想的で美しかったので、これを題材にしようと思いました。これからも、埼玉の自然の美しさを日々見つけていきたいです。

【保護者から】

知事賞の報告を受け、親子で大変喜びました。実際の作品を前に、絵の素晴らしさと水面に映る木々を描写した面白く斬新な着眼に息子らしいと感心しました。

今後これも励みに絵のレベルは勿論、何事についても豊かな発想を持ち成長していくよう応援していきます。



「水雲鏡」
上尾市立上尾中学校 3年 長峰 圭汰さん

搬入・入選・特選状況一覧表

地 区	小 学 校					中 学 校					
	搬入 校数	参加 児童数	搬入 点数	入選数	特選数	搬入 校数	参加 生徒数	搬入 点数	入選数	特選数	
さいたま市	105	68,157	13,500	1,265	138	36	17,452	1,746	169	21	
南部	北足立南	132	62,582	14,823	1,332	168	59	13,596	4,348	413	48
	北足立北	60	26,259	5,164	512	60	30	13,607	2,215	218	27
西部	入間	168	74,940	14,988	1,499	107	50	5,700	1,140	114	19
	比企	40	10,234	2,047	182	23	18	5,006	1,001	88	12
北部	秩父	23	4,565	893	76	18	12	2,471	219	51	9
	児玉	25	6,553	695	108	26	8	3,362	212	56	11
	大里	55	17,987	3,642	449	43	29	9,263	1,925	231	22
東部	北埼玉	49	11,626	1,067	229	27	19	6,129	225	121	15
	埼玉	148	64,505	2,095	1,488	156	73	31,104	872	522	56
私立校						4	141	29	4	1	
合 計	805	347,408	58,914	7,140	766	338	107,831	13,932	1,987	241	

小・中学校	搬入 校数	参加児童生徒数	搬入 点数	入選数	特選数	入選・特選の総計
	1,143	455,239	72,846	9,127	1,007	10,134

※ 知事賞は特選数のうちの120点。

画集「郷土を描く埼玉子どもの絵」 第38集刊行

— 図工・美術指導教材に、学校図書館に、ぜひ1冊 —

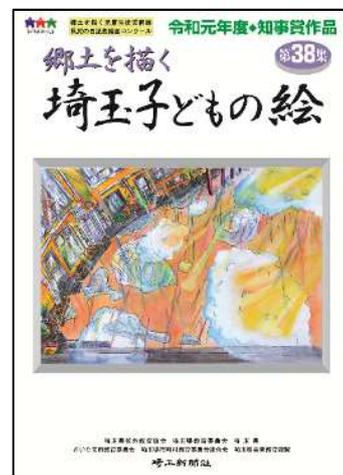
第54回「郷土を描く児童生徒美術展」の知事賞を受賞した120点の作品を掲載した画集「郷土を描く埼玉子どもの絵」第38集が刊行されました。

今回も子供たちの個性が光る素晴らしい作品が揃いました。

掲載作品には審査委員の「作品のみどころ」を付け、専門家による鑑賞案内「子どもの絵について」や特選を受賞した全員の氏名・学校名も掲載されています。

ぜひ、御家庭や教育現場に1冊いかがでしょうか。

お申込みは、指定教科書販売店、埼玉新聞販売店又は埼玉新聞社出版担当（TEL048-795-9934）までお願いします。



会員の皆様へ 会長 村上 博俊

本年は協会設立60周年、学校教育・校外教育の「あ・い・う・え・お」

「皆さん、かんぱんは!」学校教育・校外教育の看板は、会員の皆さんです!!

そして埼玉の教育の看板は、児童生徒です。次の世代を担うのですから。

この校外教育協会の会員の皆様は県内の市町村長及び公私立の小中学校長という極めて教育の発展に重要な役目を持つ方々であります。お力を借りて、子供たちの未来を創っていきたくと存じます。

さて、表題の「あ・い・う・え・お」。私にとっては、感慨深い。教員のスタートとゴールでお世話になった川口市では「あ・い・う・え・お」が謳われていた。「あ 荒川、い 鋳物、う 植木、え 映像、お 御成道（またはオートレース・・・こちらはあまり教育的ではない）」まさに、川口市の看板だ。初任者として赴任した中学校に、30年ぶりに校長として再度赴任し、この学校で定年を迎えようとしていた。赴任での警察への挨拶と地域訪問では「子供たちはすばらしい。周りの環境は大変危うい。」と言われた。（令和元年最新ニュースでは、ある調査で川口市は住みたい街NO.1に選ばれている。）

児童生徒を見れば学校がわかる。地域がわかる。「看板は生徒です。」私は、そのような気持ちで次のような「あ・い・う・え・お」を掲げ「日本一の学校」を目指した。

あ 挨拶はたった2秒の自己紹介。・・・地域の方に2秒で印象付ける元気な挨拶を。
い 一に勢い、二にっこり・・・困難にも前向きで、忠臣蔵の豊替えの様な勢いを。
う 歌声で泣ける学校。嬉しくて泣ける学校。・・・学校生活に皆が泣くほど燃える。
え 笑顔が輝く学校。・・・校内でも校外でも、はじけるような笑顔でいよう。
お 「おめでとう」が飛び交う学校。・・・誕生日から卒業までお互いに讃えよう。

校長がいつも言っていることは、この5つだと、生徒も保護者も地域も教職員も間違いなく応えて（答えて）くれた。退職して早幾年。だが、今でもこの「あいうえお」を思い起こすと力が湧いてくる。もう一度、子どもたちの成長のために関わりたいという思いが不思議と湧いてくる。我ながら感心する「魔法の言葉」だ。

このヒントは私も毎年参加していた「校外教育協会の総会」で行われていた県内4校の「委嘱発表」。その発表をその都度自分の学校に当てはめて考えた。

今、現場で指揮を執っているすべての校長先生方にもこの言葉を使ってみないかと愚にもつかぬ事だが勇気を出して、ここに掲載させていただいた次第である。

(一社)埼玉県校外教育協会について

昭和35年に社団法人として設立され、**埼玉県内の児童・生徒の校外での生活の充実を図る活動の助成及び郷土を愛する運動の促進を図ることに係る事業を行い、児童・生徒の健全な育成に寄与することを目的として活動しています。**

平成25年4月1日に社団法人から一般社団法人へ移行し、会員は県内の公立小学校長806、公立中学校長413、公立義務教育学校長1、市立特別支援学校長4、私立小学校長5、私立中学校長30、埼玉大学教育学部附属校（小・中・特）の学校長3、市町村長63の合計1,325名であり、事務局は埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課に置かれています。

郷土を愛する子供たちの育成に、**今後とも会員（県内各市町村長・各学校長）の皆様のご理解・御協力をお願い致します。**